

## ②汪兆銘（汪精衛）の梅

本学大幸地区（名古屋市東区）の大幸医療センター内には、「汪兆銘の梅」と呼ばれる二本の梅の木があります。これらの梅は、もとは鶴舞地区（名古屋市昭和区）の医学部中庭に植えられていたものですが、医学部建物の改修工事等の関係で移植されたものです。

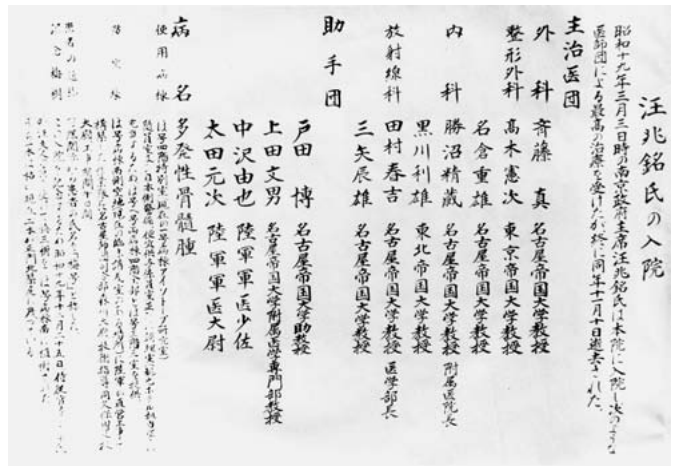
汪兆銘（1883 - 1944）は中国広東省生まれの政治家で、清朝末期に日本へ留学し法政大学を卒業しています。彼は、孫文の中国革命同盟会のメンバーで、国民党左派の重鎮でした。孫文の死後、汪は国民政府主席として国民党政権を指導しましたが、日中戦争後は親日派として、対日派の蒋介石と対立しました。1940（昭和15）年には日本の支援により南京国民政府を樹立しました。

1943年、汪は、南京の日本陸軍病院で以前受けた凶弾の摘出手術を受けました。しかし、手術後の経過が思わしくなかったため翌年3月に来日し、名古屋帝国大学附属病院で再手術を受けました。このことは、暗号「梅号」と呼ばれて一般には公表されませんでした。しかし、彼の病気は多発性骨髄腫であったため、治療の甲斐もなく同年11月に附属病院内で死亡しました。

「汪兆銘の梅」は、汪の死後、治療に対する感謝として遺族から寄贈されたものです。彼が梅をこよなく愛していたためといわれています。梅は当初三本ありましたが、のちに一本が枯れたため現存するのは二本となっています。



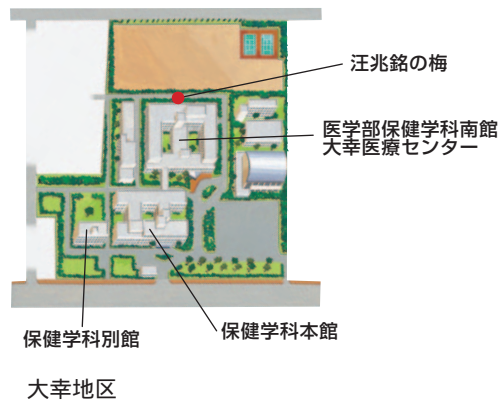
汪兆銘（附属図書館医学部分館所蔵）



汪兆銘の死亡を伝える掲示（附属図書館医学部分館所蔵）



鶴舞地区に植えられていた頃の「汪兆銘の梅」



名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物等に関する情報をお持ちでしたら、  
大学史資料室（052-789-2046、nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡下さい。